

イエス・キリストの隠れた弟子

復活祭に向けて、イエス・キリストの隠れた弟子についての私の黙想を、皆さんと分かち合いたいと思います。

その弟子とは、ニコデモとアリマタヤのヨゼフです。イエスさまの時代に、二人は名の知られた影響力のあるユダヤ人でした。最初この二人は、自分の立場上、危ない橋を渡ろうとはしていません。もし自分の信仰を公けにしたら、すべてを失ってしまうかもしれなかったからです。ヨハネ福音書3章2節を思い起こしてください。ニコデモは「ある夜」イエスのもとに行きました。聖書に記されてはいませんが、恐らく自分の地位を失うことや仕返しされるかもしれないという戸惑いや困惑に恐れて、用心していたでしょう。しかし、ヨハネ福音書7章50～51節では、ニコデモは他のファリサイ派の人々からイエスさまを守ろうとしています。一方、ヨハネ福音書19章38節では、アリマタヤのヨゼフがユダヤ人権威者たちを恐れて、密かに隠れてイエスさまの支持者だったことが述べられています。

イエス・キリストの素晴らしいところは、決して強制しようとしめない寛容さです。受難と十字架の死というイエスさまの最大の苦難の時に、ヨハネ以外の弟子たちは皆、逃げ出しました。そして埋葬には、ニコデモとアリマタヤのヨゼフがとても重要な役割を果たしたのです。ヨハネ福音書19章38～40節では、アリマタヤのヨゼフがピラトにイエスさまの遺体の取り降ろしを願い出て、ピラトが許したので、ヨゼフは行ってご遺体を取り降ろしました。かつて「ある夜」、イエスさまのもとにやって来たことがあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を100リトラほど持って来ました。彼らはイエスさまの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包みました。そして、アリマタヤのヨゼフは、自分の墓をイエスさまのために使うようにと計らいました。それは、ご遺体が通常の犯罪人が埋葬される共用の墓に入れられることを、絶対に受け容れられなかったからです。

最初、ニコデモとアリマタヤのヨゼフの身分・地位は、彼らの信仰を公けにするためには障害となるように見えたが、イエスさまの埋葬の際には、イエスの弟子として公けに態度を明らかにしています。この二人の富と影響力によって、イエス・キリストの遺体を引き取り、きちんとしたまともな埋葬ができたのです。その上、彼らは自分のすべてを失うことや戸惑い、イエスとともにいることの迫害などの恐れを抱きながらも、埋葬したのです。二人は、自分たちが守ろうとして来た地位や身分といったものは、最後には何の意味もないと考えました。イエス・キリストのためにそれを捨てることによって、すべてを得ることになるのです。つまり「自分の命をまもろうとする者はそれを失うが、私のために自分の命を失う者は、それを守ることになる」のです。

ニコデモがイエスさまを訪問した夜、霊的に生まれ変わるようにと諭されたことを思い起こしてください。私にとって、復活祭の実りの一つは、霊的に再び生まれることです。イエスさまの復活は、私たちに恐れず勇気あるイエスの弟子としてくれるはずです。私たちもイエス・キリストの受難と死のうちに共に死んで、その復活と共に甦るのです。埋葬されたイエス・キリストと共に、自分の恐れや罪の深さを葬り去りましょう。復活されたイエス・キリストの大いなる喜びと感謝と共に、この信仰生活を生きて行くことが出来ますように、アレルヤ！

ホセ ノレッラ、フィリピン宣教会